参考書式］

RC造等一戸建て用

設計内容説明書（耐久性・可変性）

建築物の名称：

確認項目		設計内容説明欄			設計内容確認
		項目	設計内容（機構監修住宅工事仕様書による場合は記入不要）	記載図書	
劣化対策等級※	セメント	セメントの種類	□ ポルトランドセメント(JIS R 5210) [□ 普通　□ 中庸熱　□ 低熱　□ その他　] □ フライアッシュセメント(JIS R 5213) □ 高炉セメント(JIS R 5211)	□ 住宅工事仕様書 □ 構造特記仕様書 □	□ 適 □ 不適
	コンクリートの品質、施工計画等	水セメント比	・コンクリートの種類 [□ 普通コンクリート　□ 軽量コンクリート　□ その他　] ・水セメント比　（　　%）	□ 住宅工事仕様書 □ 構造特記仕様書 □	□ 適 □ 不適
		最小かぶり厚さ	部位 ／ 水セメント比 ／ 最小かぶり厚さ*：□ 50%以下　□ 55%以下 直接土に接しない部分 ／ 耐力壁以外の壁又は床 ／ 屋内 ／ 20mm以上　30mm以上 直接土に接しない部分 ／ 耐力壁以外の壁又は床 ／ 屋外 ／ 30mm以上　40mm以上 直接土に接しない部分 ／ 耐力壁、柱、はり又は壁ばり ／ 屋内 ／ 30mm以上　40mm以上 直接土に接しない部分 ／ 耐力壁、柱、はり又は壁ばり ／ 屋外 ／ 40mm以上　50mm以上 直接土に接する部分 ／ 壁、柱、床、はり、基礎ばり又は基礎の立上り部分 ／ 40mm以上　50mm以上 直接土に接する部分 ／ 基礎（立上り部分及び捨てコンクリートの部分を除く。） ／ 60mm以上　70mm以上 *最小かぶり厚は、外壁の屋外に面する部位にタイル張、モルタル塗、外断熱工法等による処理が施されている場合は屋外側の部分に限り、最小かぶり厚さを1cm減ずることができる。 ・外壁仕上げ □ タイル張　□ モルタル塗　□ 外断熱工法 □ その他　（　　）	□ 住宅工事仕様書 □ 構造特記仕様書 □ 立面図 □	
		設計かぶり厚さ	・設計かぶり厚さ＝最小かぶり厚さ＋（　　）mm	□ 住宅工事仕様書 □ 構造特記仕様書	
		スランプ	□ 18cm以下　（コンクリート品質基準強度 33N／mm2未満） □ 21cm以下　（コンクリート品質基準強度 33N／mm2以上）	□ 住宅工事仕様書 □ 構造特記仕様書 □	
		単位水量	（　　）kg／m3　≦　185　kg／m3		
		空気量	□ 4～6　%　□ その他　（　　）		
		コンクリートの充填方法等	・打込、締め固め方法 （　　） 打継ぎ部の処理方法 （　　） 養生方法 （　　）	□ 住宅工事仕様書 □ 構造特記仕様書 □	
維持管理対策等級（専用配管）	専用配管	コンクリート内埋め込み配管の有無	・排水管　［□ 無　□ 有］ ・給水管　［□ 無　□ 有］ ・給湯管　［□ 無　□ 有］ ・ガス管　［□ 無　□ 有］	□ 住宅工事仕様書 □ 仕上表 □ 平面図 □	□ 適 □ 不適
	地中埋設管	地中埋設管上のコンクリート打設の有無	・排水管　［□ 無　□ 有］ ・給水管　［□ 無　□ 有］ ・給湯管　［□ 無　□ 有］ ・ガス管　［□ 無　□ 有］ □ 条例等の規定により凍結防止のため配管埋設が定められている地域	□ 住宅工事仕様書 □ 仕上表 □ 平面図 □	□ 適 □ 不適
	排水管の性状等（継ぎ手及びヘッダーを含む）	排水管等の内面	□ 平滑である（仕様等：　　） □ その他（　　）	□ 住宅工事仕様書 □	□ 適 □ 不適
		設置状態	□ たわみ抜け等が生じないように設置措置（　　） □ その他（　　）		

※　平成12年建設省告示第1347号第1第2項第3号ロの規定に適合する高強度プレストレストコンクリートぐいの部分及び同号ハの規定に適合する遠心力鉄筋コンクリートぐいの部分については、劣化対策等級における基準に適合させる必要はありません。

注1）フラット35S（優良な住宅基準（耐久性・可変性））に関する基準は、以下のとおりです。
・劣化対策等級・・・等級3
・維持管理対策等級（専用配管）・・・等級2または等級3

注2）重ね建て、連続建ての場合においては、別の書式（RC造等共同住宅等用）を活用してください。

注3）太枠で囲われた欄は、設計者等が記入してください。なお、この欄に記載されている事項は、必要な範囲内で、個別の検査において変更することができます。

注4）書式内の欄に記載事項が入らない場合は、別添用紙を用いることができます。この場合にあっては、別添用紙に番号等を付し、該当する欄に当該番号欄を記載してください。

平成28年4月1日